

ゲレンデスキーの教育的意義に関する研究～野外教育の視点から～

発表者 深川 敬史
指導教員 日下 裕弘

キーワード：体験学習、冒険教育、発見・探求学習、暗黙知の教育、感性の教育

1. 緒言（研究の目的）

学校では、野外活動の充実が図られている。その一方で、児童生徒の減少、指導者不足や経費の負担が大きいこと、怪我等の安全面の確保の難しさより、スキー学習が行われる中学校が減少している。

本研究は、野外教育の視点からゲレンデスキーの教育的意義を探求することを目的としている。

2. 論文の構成

- はじめに
- 先行研究
- 新しい教育の課題
- 研究の枠組み～野外教育とは～
 - 野外教育の定義
 - 野外教育の特徴
 - 野外教育で学ぶこと
 - 野外教育がもたらす効果
 - 自然体感
 - 冒険教育
 - 余暇教育の機会を与える
 - 自然に接するルールを学ぶ
 - 野外教育のまとめ
- ゲレンデスキーの教育的意義
 - スキーの歴史
 - スキー授業の現状～北海道の例～
 - 学習指導要領におけるゲレンデスキーの位置づけ
 - ゲレンデスキーの「野外教育」的意義
 - ゲレンデスキーの「身体運動教育」的意義
 - まとめ
- 今後の課題

3. 野外教育とは

3-1 新しい教育課題

川西によれば、今後の子どもの教育に投げかけられる課題には、次の3点がある。

- 自ら考える創造力
- 豊かな個性と情操の人間性
- より実践的な理解力や行動力

3-2 野外教育の定義

平成8年の文科省報告書「青少年の野外教育の充実について」は、野外教育を自然の中で組織的、計画的に、一定の教育目標を持って行われる自然体験活動の総称であると定義づけている。

4. ゲレンデスキーの教育的意義

4-1 学習指導要領のゲレンデスキーの位置づけ

中学校学習指導要領 第2章保健体育科の目標及び内容では、「(4) 自然とのかかわりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。」とある。

4-2 ゲレンデスキーの「野外教育」的意義

ゲレンデスキーを野外教育の教育的意義と関連

させて考察すると、以下のことがいえる。

① 新しい3つの教育課題との関連から

雪山（ゲレンデ）では、危険を伴う可能性が十分あるなかで、自分で考えたり、仲間と競演したりしながら挑戦（チャレンジ）する。また、五感を研ぎ澄まし、自然と共振し、同調することで、「自ら考える創造力」を確立し、「豊かな個性と情操」が築き上げられる。それは、ストレスとチャレンジを含む直接的体験であり、「より実践的な理解力、行動力」を育成できる。

② 野外活動としての教育的意義

ゲレンデスキーの授業は、（上記の新しい教育課題の達成という役割をもち）学校という集団のなかで行われる全面的な発達をめざす教育の一環として位置づけられる。

③ ゲレンデスキーの「身体運動教育」的意義

例えば、回転技術（ブルークボーゲン、シュテムターン、パラレルターン）を学習する。また、その動感には、楽しさが伴っている。（技の習得）

④ 体験学習としての教育的意義

ゲレンデスキーは、体験学習である。直接体験を通して新たな発見や技を習得し、そして達成感などの感動を味わうことができる。このように目的をもって挑戦し、努力し、困難を乗り越え、達成するサイクルを繰り返すことで、自己の存在が実感できる。

⑤ 感性の教育としての意義

ゲレンデスキーは、自然という生命と触れあい、共振し、同調し、人間の五感を通して、感覚で学び、豊かな感受性を育む。そして、この自然との触れ合いが自然を理解するきっかけを与え、新しい自分と出会うきっかけを与えてくれる。

⑥ 暗黙知の教育（見えにくい成長）

ゲレンデスキーでは、雪山という神秘的かつ美しい自然の空間のなかで、スキーヤー自身が五感を基に、主観的な感情の高ぶり、心おどる体験を体験している。そういった中で、言葉では表現しにくい暗黙知的な学びが行われ、見えにくい成長がある。

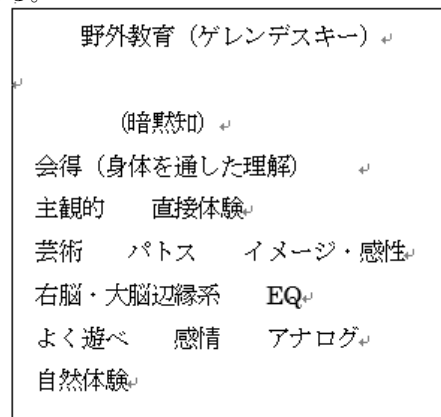


図1 野外教育としてのゲレンデスキー（暗黙知）

⑦発見・探求学習としての意義

個々がもっている知的好奇心から、興味の範囲を広げ、自主的にかつ積極的に取り組むことにより、ゲレンデスキーは、個々が向上心をもって取り組み、新しい自己・世界を発見するよい機会になる。スキーの楽しさに内発的に動機づけられ、技を探求していく。

⑧ゲレンデスキーと自然環境（環境教育）

現在、自然環境に関する理解やモラル・マナーが低下している。ゲレンデスキーによる直接的な体験を通じて、自然と触れあい、雪山の神秘性、雄大さを個々が感じとることで、自然と人間の共存について考えることができるようになる。

⑨冒険教育としての意義

例えば、プロジェクトアドベンチャーと呼ばれる冒険教育では、チャレンジ・バイ・チョイス（自分自身で選択して行動すること）とフルバリュー・エンタクト（心理的な安全・安心）が配慮されるが、新しい技へのチャレンジは、それが自らの決定した選択であるだけに、安全・安心の枠組みをぎりぎりの線で乗り越え、自らとその世界を広げてくれる。

⑩余暇教育としての意義

野外での活動は、精神の緊張を解消するのに役立つ。白銀の世界で美しい景色に囲まれてスキーを行うとき、精神の緊張はきれいに解消される。

スキーは、雪がある限り、斜面がある限り、どこでも楽しむことができ、どこまでも滑ることができる。スキーヤーは、無心になって、素直になって雪と戯れることで、大きな自然がスキーヤーの悩みや不安、緊張状態を忘れさせてくれる。そして、日常の型にはまった存在様式を解放してくれる。

5. まとめ

本論文では、野外教育の意義について、ゲレンデスキーの教育的意義を野外教育と関連から考察した。図2は、ゲレンデスキーの教育的意義を野外教育の諸要素（①～⑩の要素）の関係として表したものである。

6. 今後の課題

野外活動としてのゲレンデスキーの指導実践を通じて、その教育的意義をさらに探求していくことが今後の課題である。

7. 文献

- 1) 江橋慎一郎(編著)、執筆者 川西正志、菊池秀夫、酒井哲雄、佐野信三、仲川寿男、永吉宏英、原田宗彦(1987): 野外教育の理論と実際、杏林書院
- 2) 星野敏男 (2002): 自然と人との教育実践からキャンプの知 筑波大学野外運動研究室編、勉誠出版、pp.133-152

ほか

図2 ゲレンデスキーの教育的意義の相関図

